



ご自由にお持ちください

**2023.10 No.4**

「けんこう」特別号

# つなぐ

病院と地域を  
つなげる広報誌



## 院長メッセージ

## Message

緻密で繊細な手技が求められる外科手術。当院では安全性を第一に、ロボット支援手術を積極的に取り入れています。今回の特集では、大腸がんのロボット支援手術をテーマに、消化器外科の取り組みをレポート。個々の患者さんに最適な治療を提供するために力を注ぐ医師たちの姿勢や診療内容について紹介しました。ぜひご一読ください。



## SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」  
**LINKED**  
*plus+*  
 病院を  
 知ろう

**大腸がん治療の  
高度化をめざして**  
 消化器外科特集

## CONTENTS

- 1 私たちの「治療」
- 2 私たちの「療養支援」
- 3 ここから一步!
- 4 地域医療事情
- 5 NEWS&TOPICS

SPECIAL REPORT

# 大腸がん治療の 高度化をめざして

## 消化器外科特集

大腸がん治療の地域拠点病院として、  
求められる治療法をすべて用意する。

### CHAPTER 01 大腸がんに対する ロボット支援手術。

秋晴れの爽やかなある日、岐阜県総合医療センターの消化器外科を訪れると、数日後に行う大腸がんに対するロボット支援手術に向けてカンファレンスが開かれていた。担当医は、消化器外科部長・外科主任医師の田中千弘と、外科医長の岩田至紀医師である。田中はロボット支援直腸／結腸手術プロクター（指導医）の資格を持ち、同院において大腸がんのロボット支援手術をリードする存在だ。今回の手術では、田中が指導医、岩田が執刀医として参加する。詳細な手順を確認するために、2人は病室の画像を見ながら、注意すべきポイントについて話し合った。ロボット支援手術は、腹腔鏡手術（腹部に数力所穴をあけ、特殊なカメラ、鉗子などを入れて行う手術）にロボット機能を組み合わせて発展させた術式。多関節のロボットアームで手ぶれない細密な動きが可能になることから、高精度な手術を実現するところが高く評価されている。

同院で大腸がんのロボット支援手術をスタートしたのは、2019年2月。直腸の切除から開始し、2022年には結腸の切除へと範囲を広げてきた。「当院では以前から、泌尿器科においてロボット支援手術の実績を重ねてきました。複数の腹腔鏡技術認定医（大腸領域）が在籍して多くの直腸がん手術を行ってきた当院だからこそ、腹腔鏡手術

のメリットをロボットでさらに増幅できるであろうという先進施設の医師からの奨めもあり、私たちもロボット支援手術に取り組みることになりました」と、田中は経緯を説明する。ロボット支援手術の導入が決定すると、田中は必要な一連のトレーニングを受けるとともに、静岡県がんセンターなどの全国を牽引する施設へ何度も足を運び、最新の技術と知識を習得。最初は経験豊富な医師を外部から招いて安全第一の手術を行うところからスタートし、現在は主に田中と岩田の2名体制により、安全性に最大限配慮しながら多くの手術を施行している。「当院ではこの4年間で、大腸がんのロボット支援手術を約120例行い、いずれも良好な治療実績を収めています。腹腔鏡手術と同様に、傷が小さいため早期に回復することができ、患者さんに喜んでいただいています」と田中は話す。

### C O L U M N

●消化器外科の特徴の一つに、診療のデータ化がある。データマネージャーを育成し、数年を費やして診療データを収集・管理。現在は治療ガイドラインを作成している大腸がん研究会へ、毎年の治療データを提供しているほか、副作用調査など全国から寄せられる依頼に対応している。

●データ管理は地道な作業だが、最終的には診療内容のレベルアップに繋がる重要な仕事である。同科では今後も診療のデータ化に力を入れる方針である。



## 患者さんにとって 最適な治療を提供したい。

良好な手術実績を重ねる田中たちだが、「どこまでも、ロボット支援手術をアピールするつもりはありません」と、慎重な姿勢を見せる。それよりも重視するのは、「目の前の患者さんにとって最適な治療法を考えること」だという。「大腸がんには、開腹手術、腹腔鏡手術、ロボット手術があります。患部に直接触れる感覚を重視する場合は、開腹手術を選択します。また、患者さんの体型や病巣の位置によって、腹腔鏡手術の方が適していると判断することもあります。ロボットを使うことがベストではなく、患者さんの病状の改善が最も大切なことなのです」と田中は強調する。

限り人工肛門を回避するよう努めている。また、手術療法に薬物療法や放射線治療を組み合わせた集学的治療に力を入れていくほか、遺伝子診療科と協力し、遺伝性大腸がんの診断にも積極的に取り組んでいる。これら多様なアプローチは、豊富な診療科や部門をそろえた同院ならではの強みともいえるだろう。そうしたなかで、田中はロボット支援手術をどのように活用していく考えだろうか。「ロボット支援手術は、まだ始まったばかりの黎明期にあります。私たちがこれまで10年かけて腹腔鏡手術を普及させてきたように、ロボット支援手術も時間をかけて最適な活用法を確立していきたい。そのために重要なのは、人材育成とチームづくりです。腹腔鏡手術もロボット支援手術も、両方とも安全確実に行える若い術者を一人でも多く育て、消化器外科の体制を強化していく方針です。そうすることで、大腸がん診療の地域の拠点病院としての使命をしっかりと果たしていきたいと考えています(田中)。

## BACKSTAGE

### 地域全体で質の高い がん診療をめざす。

●岐阜県総合医療センターは地域がん診療連携拠点病院であり、岐阜県におけるがん医療の中心的な役割を担う。消化器外科ではその役割を自覚し、早くから大腸がんに対するロボット支援手術を導入し、実績を重ねてきた。

●しかし、同院がめざすのは決して最先端の治療ではなく、患者個々に最適な診療である。ロボット支援手術を一つの選択肢として、治療の高度化と標準化を図り、地域全体で質の高い大腸がん診療をめざしている。



## 「治療」

今回のテーマ

## 大腸がんのロボット支援手術



安全で確実な体制を整え、  
ロボット支援手術を行っています。

### 01

#### ロボットアームが 術者の緻密で繊細な 手の動きを再現。

ロボット支援手術は、腹腔鏡手術と同じように腹部に数カ所穴をあけ、そこから内視鏡やロボットアームを挿入。術者は高画質な3D画像を見ながら、ロボットアームを操作し、大きな可動域を備えた多関節のロボットアームが術者の緻密な手の動きを再現する仕組みです。アームには手ぶれ補正機能が備わっていて、正確で繊細な手術を実現。患者さんにとっても、小さな傷口で手術後の痛みが少なく、早期の回復が期待できるメリットがあります。

当院では直腸がんに対するロボット支援手術が保険適用となった2018年から準備を進め、2019年2月より大腸がんに対するロボット支援手術を開始し、良好な治療実績を重ねています。



### 02

#### プロクター(指導医)が 瞬時にサポートできる 2台コンソールシステムで 安全を確保。

当院では2023年1月に、手術支援ロボットを更新し、ダヴィンチXiを導入しました。更新の特徴は、2台の操作機器(dual console system)を備えたこと。指導医が1本のアームを操作してサポートしたり、部分的に術者を手元で交代することができます。若手医師が安全に精度高く手術を行うために必要なシステムとして、全科で相談して導入しました。当院ではプロクターの資格を持つ熟練した指導医が必ず手術に携わることで、手術の安全性に配慮しています。

今後はさらに、安全確実にロボットを操作できる若い術者の育成に力を注ぎ、ロボット支援手術も含めて大腸がん手術の高度化をめざしていく方針です。

### Message

消化器外科 部長  
田中千弘



ロボット支援手術を  
一つの選択肢として  
最善の治療を提供。

大腸がんのロボット支援手術は、患者さんの体に負担の少ない優れた治療法です。しかし、どの方にとっても、最適で安全とはいえません。大腸がんの手術には、ロボット支援手術のほか、開腹手術、腹腔鏡手術があります。それぞれの治療法のメリットとリスクをしっかりと検討し、患者さんの個々の病状に合わせて最適な治療法を提案するよう心がけています。

なお、こうした治療法の選択の前には、患者さんやご家族の希望を丁寧にお聞きします。治療に対する不安や質問、薬物療法や放射線治療も含めた大腸がんの治療全般についてどんなことでもお話しください。一緒により良い治療を考え、最善の治療を提供していきたいと思えます。



がん検診とは?① がん検診の目的は、早期発見・早期治療によりがんで死亡するリスクを減らすこと。

# 「療養支援」

今回のテーマ

## ストーマ外来



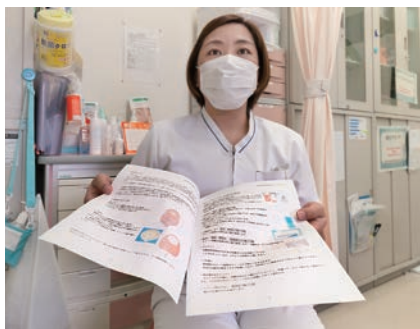
日常生活を取り戻すために、ストーマケアの専門ナースが、あなたとご家族を支えます。

### 01 腸や尿管の一部からお腹に造られた新たな排泄経路が、ストーマ。

ストーマとは、手術によってお腹に新しく作られた、便や尿の排泄出口のことをいいます。特別な機械を使うのではなく、自分の腸や尿管の一部を、お腹の外に出して作られたものです。

ストーマが必要となるのは、大腸がんをはじめとする病気によって、消化管や膀胱が機能を果たせなくなったとき、病気や手術の影響で、腸を休ませる必要があるときです。

ストーマを造設することにより、身体的・精神的・社会的・経済的な変化に戸惑う方もいます。そうした方々のために、当院では、ストーマケアのスペシャリストである皮膚・排泄ケア認定看護師が「ストーマ外来」を実施し、そのときどきに応じたケアを提供しています。



### 02 身体面の変化、スキンケア、日常生活の悩み、相談にお応えします。

ストーマは、便や尿が漏れないということが一番大事です。しかし、ストーマの形自体は千差万別であり、患者さんのお腹のかたちも人それぞれ。年齢や体重の増減によって変わってくることもあります。さらに、肌に貼るのに使用する皮膚保護剤／材の種類も多様です。

ストーマ外来は、こうしたストーマサイズ・お腹の形やしわ・体重などの身体面の変化への対応をはじめ、自宅でのスキンケア指導、皮膚のかぶれ、ストーマ合併症の予防・早期発見・早期治療、日常生活の悩み相談などにお応えしていきます。まずは、退院後2週間～1カ月後にお越しいただき、その後は1カ月単位での受診となります。半年が経過したら3カ月後、半年後など患者さんの状況に合わせて受診していただきます。

### Message

皮膚・排泄ケア認定看護師  
野々村育栄

日常生活を取り戻すために、ご自身でケアできるようサポート。

ストーマ外来で私が大切にしているのは、日常生活を取り戻すために、患者さんになるべくご自身でケアできるようにするには、どうしたらよいかということです。

最近は、ご高齢の方が多くいせいか、自分にはできないとお思いの患者さんもいらっしゃいます。しかし、最初からそう判断せずに、どうしたらできるかを、ご家族も含めて一緒に考えます。ストーマへの正確な理解をお持ちいただければ、答えが見つかっていきます。

こうした活動は院内だけではなく、近年では、在宅療養中の方を対象に、訪問看護師さんと連携したWEB訪問も始めました。

ストーマケアに関して、どんなことでもご相談いただければと思います。



がん検診とは?②

がん検診の対象者は症状がない人=健康な人。症状のある方はすぐに医療機関を受診。

# 未来を見つめて ここから一歩!

対談

新人管理栄養士  
×  
新人看護師

主体は常に患者さん。  
大切なのは患者さんの  
背景を見つめること。

看護師(1年目)  
齋藤詩織  
(さいとうしおり)  
岐阜県岐阜市出身  
岐阜県立看護大学  
看護学部卒業  
看護部



管理栄養士(2年目)  
臼井新  
(うすいしん)  
愛知県尾張旭市出身  
愛知淑徳大学食健康科学部  
健康栄養学科卒業  
医療支援部門・栄養部

それぞれの職種をめざしたきっかけ、  
当院への入職の動機をお教えてください。

**臼井** 小学生のころ、母が妹の離乳食を、栄養価を考え頑張って作っていたんです。子どもながらに、栄養って人間にはとても大切なんだと思ったのがきっかけで、食に関わる仕事をしたいとずっと思っていました。高校生のとき、管理栄養士という職業があることを知り、この道をめざしました。

**齋藤** めざすきっかけがしっかりとあって、素晴らしいですね。私は、高校の先生に、よく笑うから看護師が向いてる、と言われて看護師をめざしました。

**臼井** 笑顔は看護師さんには大切です。人に対するやさしさや思いやり、その背景にある責任感の強さを感じます。

**齋藤** ありがとうございます。当院を選んだのはなぜですか？

**臼井** 患者さんに寄り添い、高度で質の高い医療提供をしていることに共感したことです。病気について幅広く知識を学ぶには、とても良い環境だと思いました。齋藤さんは？

**齋藤** 学生時代の実習で、指導して下さる看護師さんがとてもやさしく、時間をかけ丁寧に教えて下さる方ばかりだったのです。雰囲気もよくて、ここで働きたいと思いました。

入職3年目には栄養サポート  
チーム専門療法士の研修があり、  
今からとても楽しみです!



患者さんの一番身近な存在として、  
いつも患者さんに寄り添った  
看護をしていきたいと思っています。

今、仕事をする上で何を実感していますか？  
また、仕事では何を大切にしていますか？

**齋藤** 患者さんとのコミュニケーションや、医療行為に関わる業務が、段々が増えてきました。当たり前の話ですが、責任の重さを日々実感しています。

**臼井** 私が実感するのは、各科の医師が、栄養の大切さ、栄養指導の必要性を認識してくれていることですね。この病院では、管理栄養士の立場が確立されているなど感じています。

**齋藤** 日々、どんなことを大切にしているのですか？

**臼井** 栄養指導の主体は患者さんであるという意識です。情報を伝えるだけでなく、患者さんが大事にしていることを中心にして、食でできることを一緒に考えるという姿勢ですね。

**齋藤** 患者さんが主体というのは、看護でも同じです。たとえ忙しくても、患者さんの声には耳を傾ける、患者さんが気持ちよく療養できるように、細かいところまで気を配る…。すべての医療スタッフに共通することですね。

**臼井** そのとおりです! これからも、患者さんの背景を見つめて、一人ひとりに最適な医療を提供していきたいですね。

プラス  
α

がん検診とは?③ 「要精密検査」という結果が出た場合は、精密検査まで受けることが大切。

知っておきたい

# 地域 医療 事情

今回のテーマ

がん診療  
連携拠点病院

岐阜県  
総合医療  
センター  
では

国内のどこにいても、同レベルのがんの専門医療を受けられるために整備されたがん診療連携拠点病院。

✔ 都道府県知事が推薦し、厚生労働大臣が認め指定する病院。

我が国では、がん医療の均てん化、すなわち、都会にいても地方にいても、同じレベルの標準的な専門医療を受けられるよう、全国に456カ所の「がん診療連携拠点病院」が配置されています。令和5年4月時点では、都道府県がん診療連携拠点病院51施設・地域がん診療連携拠点病院357施設・特定領域がん診療連携拠点病院1施設・地域がん診療病院47施設。また、小児・AYA世代(思春期・若年成人世代)に対しては、全国に小児がん拠点病院15施設・小児がん中央機関2施設の計17カ所。国が定める指定要件を満たし、都道府県知事が推薦する病院に対して、厚生労働大臣が認め指定した病院です。

✔ 専門的がん医療と地域連携と患者支援を果たすために。

がん診療連携拠点病院は、専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の整備、患者さんや住民への相談支援や情報提供などを行っています。このなかで都道府県がん診療連携拠点病院は、都道府県単位での、いわばがん医療のリーダー的な役割。地域がん診療連携拠点病院は、地域に密着し、比較的身近なところで専門的ながん診療を提供。特定領域がん診療連携拠点病院は、特定のがんにおいて都道府県内での拠点的な役割。そして、地域がん診療病院は、拠点病院のない地域で基本的ながん診療を提供します。また、小児がん拠点病院等・小児がん中央機関は、小児のがんへの医療や各種支援を提供し、長期間に亘りフォローアップします。いずれの病院においても、原則、地域医療機関からの紹介により、がん患者さんを受け入れています。



「患者さんに木曾川を越えさせない」  
がん医療に注力。

当院は、2005年に、岐阜県の岐阜医療圏における地域がん診療連携拠点病院の認定を受けました。そして、2023年には、患者サポートや地域連携により重点が置かれた、新しい認定条件が出されましたが、これに対しても再認定を受けることができました。

当院は、初認定の翌年には、がん医療の中心的役割を担う「がん医療センター」を設置。緩和ケアチーム・がん相談支援センター・化学療法部・放射線治療部・緩和ケア外来・カンサーボード・がん登録室を設け、組織横断的な領域において、スタッフが各部署と協力し、活動を行っていま

す。また、2023年度は、最新の治療機器を揃えた放射線療法と、遺伝子(ゲノム)医療のための新棟整備計画が進行中。がん医療のさらなる高度化に全力を注いでいます。

がん医療における私の信念は、住み慣れた地域で充実したがん医療が受けられるよう「患者さんに木曾川を越えさせない」。がん医療の進化に、真正面から挑み続けていきます。

がん医療センター長  
國枝克行



がん検診とは?④ がんを早期発見するためには、定期的ながん検診の受診が大切です。

WEB開催  
参加無料岐阜県総合医療センター健康祭2023を開催します。  
ぜひご参加ください!命をつなぐ、  
救急医療・放射線治療の最前線!!2023年11月11日(土)  
13:00~16:00

ライブ配信のお申込み方法と注意事項

ライブ配信のご視聴には、  
事前のお申込みが必要です。

PRESENT企画

ライブ配信中に出てくるキーワードを  
集めて素敵な景品をGETしよう!

特設サイト

公開期間内のお好きな時間に  
ご視聴いただけます。<https://www.gifu-hp.jp/kenkosai2023/>特設サイトでは10のポスター・動画企画を  
準備しています。ぜひご覧ください。

●お問い合わせ

岐阜県総合医療センター事務局  
TEL:058-246-1111(平日8:30~17:15)

がん検診 愛する家族への 贈りもの

早期発見、早期治療のために定期的に  
がん検診を受けましょう。

ライブ配信(市民公開セミナー)

セミナー1

13:10  
開始新生児チームによる新生児  
搬送車(すこやか号)の紹介

新生児内科 医師 山本 裕



《和太鼓「櫂」演奏》

セミナー2

13:40  
開始高度な救命救急  
(エクモを使った心肺蘇生)

循環器内科 医師 吉眞 孝



アイスブレイク1 いきいき呼吸体操(中央リハビリテーション部)

セミナー3

14:10  
開始血便の原因第1位、日本で増えている  
“大腸憩室出血”とは?

消化器内科 医師 小澤 範高



アイスブレイク2 いきいき口コモ体操(中央リハビリテーション部)

《休憩》

セミナー4

14:55  
開始高齢者等を「看取る」  
搬送・不搬送 ~人生会議~

管財課 救急救命士 田中守人



アイスブレイク3 健活美楽(けんかつみらく)るレシピ(栄養部)

セミナー5

15:20  
開始新棟(南棟)における放射線治療の展開  
~新しく導入される放射線治療システムの紹介を含めて~

放射線治療科 医師 梶浦雄一



※企画内容は、予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

岐阜県総合医療センター WEBマガジン

地域の皆さんや連携機関の皆さんと「岐阜県総合医療センター」を情報で  
繋ぐ、広報誌連動型コミュニケーションサイト。ぜひご覧ください。

つなぐ

こちらから

